

新入生のみなさん。

図書館で情報収集、読書の習慣を！

総合図書館長
経営学部教授

樋 口 兼 次



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。
白鷗大生になったみなさんに、図書館を大いに利用し、本を沢山読むことをお奨めします。

白鷗大学は、将来の進路の目標を立て、目標に向かって学びの計画を立て、それに沿って履修を計画し、学生自身が主体的に学ぶ場です。高校時代のように、お仕着せの勉強を消化するだけでなく、自分で考え、工夫して勉強する必要があります。そのときに、図書館はとても有効です。

豊かな教養を読書で身につけよう！

白鷗大学の授業科目は、教養を幅広く身につけるための教養科目と、学部や専攻などの専門分野の知識や技術を身につけるための専門科目があります。歴史、文化、文学、哲学、芸術、自然科学などの教養を身につけることは、社会人として不可欠の素養であると同時に、豊かな人生の糧となるものです。また、豊かな教養の土台があって、はじめて専門知識がしっかりと理解でき、より高い専門性を獲得できるからです。

図書館は、大学生として必要な教養の図書を完備しています。授業の合間に図書館に入って、書架をぐらりと一回りしてみましょう。気になった本を手にとってみましょう。好みの本から読書を

始めてみましょう。

「こんな本が読みたい！」と思ったら、カウンターに座っている司書（図書館の管理、案内の専門家）に気軽に相談してみてください。きっと、優しく親切に教えてくれます。

専門知識の理解を図書館で！

先生の講義や教科書を一方的に覚えるだけでは十分ではありません。というよりも、講義を聴いていると解らないことが沢山出てくるはずですよ。そんなときは図書館に行きましょう。辞書、事典を引いたり、図書館の備え付けのパソコンで用語検索してみましょう。これで、大雑把な意味は解るはずですよ。先生の講義の教科書や参考書を読んでもすぐに理解できないことも沢山あるはずですよ。そんなときは、関連する入門書や解説書を探しましょう。図書、文献の検索方法は、司書に気軽にたずねてください。すぐにできるようになります。

豊富な情報でレポート作成

多くの授業でレポートが課されます。レポート書くときは、図書館は威力を発揮します。中には、簡便な用語検索サイトなどからコピー（コピー&

ペースト)して、あたかも自分で書いたようなふりをしてレポートを提出する者がいます。でも、先生の眼は「節穴」ではありませんよ。

用語検索サイトも、勉強の取っかかりには有効利用してください。でも、それに頼ってはだめです。専門図書や雑誌記事、新聞などから情報を採集し集め、自分の頭でしっかり考えてレポートを書いてください。

読書は頭脳を鍛える！

食べたいものが簡単に、すぐに食べられるファストフードは、忙しい現代生活にはとても便利なものです。でも、こだわりの味を求めて、わざわざ遠くまで、時間をかけて、お店を探して食べに行くスローフードも今、ブームです。

情報も同じことで、ファストフード型とスローフード型があります。昔は、スローフード型しかありませんでしたが、いまや情報社会です。iPadやAndroidなどタブレット型PCが次々に普及しファストフード型情報が溢れています。

いろいろな事柄を広く浅く、サッと手に入れることができるファストフード型情報は、この上なく便利です。新しい言葉や聞きなれない言葉に出くわしたときは、わたしも、ちょくちょく利用します。

学ぶことは、先ず知ることから始まり、あれこれ考え、知識として定着させます。そして、それをほかの知識や経験と結び付けて熟慮し、ようやく認識することができます。つまり、情報⇒知識

⇒認識というプロセスには相当の時間をかけなくてはならないのです。学問には、スローフード型の情報消化と知識化が不可欠で、読書が重要な役割を果たします。

本を読み、考え、悩み、また読み、考える。こうした繰り返しは、大脳を鍛えます。

図書館にもぐりこんで、本を探し、丹念に本を読んで情報を集め、じっくり考えて書いたレポートは、しっかり心に刻み込まれるのです。

こんにちの図書館は、パソコン、DVDなどのデジタル情報と従来型の印刷物情報の両方を備えています。これらを有効に活用してください。

新聞でニュースを見る習慣を！

いま、日本の政治は激動し、経済は混迷していますが、世界中で同様の混乱が広がっています。それは、世界が100年に1度の歴史的な大変動のさなかにあるからです。

日本で、世界で何が起きているのか？各国や人びとがどう動いているのか？どのような新しい考え方が生まれつつあるのか？

学生諸君は、大いに関心を持ってください。最近新聞を取っていない家庭が増えているそうですが、毎朝新聞に目を通す習慣をつけてください。図書館には、主要新聞がすべて完備されています。

授業の空き時間には図書館を大いに利用してください。きっと大学生活を充実させてくれることでしょう。

「本を読む」 ことについて

経営学部講師

川 上 代里子



皆さんは「本を読む」という言葉を聞いた時、どんな光景を思い浮かべますか？寝る前にベッドの上で、移動中の電車の中で、また昼休みに教室で、放課後に図書館で、時間や場所はいろいろあ

るでしょうが、皆さんが想像するのは「一人で」「黙って」本を読む姿ではないでしょうか。しかし、この本を一人で黙読する習慣は、はじめからあったわけではありません。その昔、「本を読む」

という行為は、黙読よりもむしろ、声に出して読み、みんなでその内容をたのしむことを意味しました。前田愛は『近代読者の成立』の中で、江戸時代の終わりから明治時代にかけて、読書が音読から黙読へと変化していく過程をとりあげ、それが言文一致運動(書き言葉を話し言葉に近づけようとする運動)へ与えた影響を考察しています。ここでは、この『近代読者の成立』の中で述べられている二つの音読の型、朗読と朗誦について、紹介したいと思います。

明治時代初めの頃の日本では、「一人の読み手を囲んで数人の聞き手が聴き入る共同的な読書形式」が一般的でした。これを前田愛は朗読と読んでいます。このような読書形式が行われた理由の一つとして、書物が、現在よりもはるかに希少なものであったことが挙げられます。印刷技術などから考えても(当時の日本は木版印刷から活版印刷への移行期でした)、現在のような規模で本を大量に出版することは到底不可能です。当時はたくさん本を所蔵する一般家庭は珍しく、貸本屋や知人から本を借り出した際には、家族そろって読書のたのしみを分かち合いました。借りてきた本を「父がおもしろく読んでくれる」のを、「母は針仕事を、姉は編物をしながら」、家族みんなで聞くといったことがふつうの事だったようです。小説は個人的に鑑賞されるものというより、「家族共有の教養の糧、娯楽の対象」として考えられていました。この貸本の戯作小説は、やがて小新聞(明治初期から中期にかけて庶民に人気のあった娯楽の新聞の総称)のつづき物に読者を譲ることになりますが、小新聞が家庭に浸透していった時にも、それは声に出して読まれ、聴かれるものでした。

このように読書が共有の娯楽から個人的な鑑賞へ変化していったことは、テレビになぞらえて(前田愛はラジオを例に挙げています)考えてみるとわかりやすいと思います。テレビも、もともと一台のテレビを居間において、家族みんなで視聴するものでした。現在では、家族が複数のテレビを所有し、それぞれ見たい番組をみるようになり、さらに携帯電話からワンセグ放送をみるといったこともできるようになっています。技術が発達して、本、ラジオ、テレビなどの媒体が豊富に安価

になっていき、それを個人で所有することが容易になっていくと、その楽しみ方も、集団的なものから個人的なものになっていくようです。

朗読といわれる共同的な読書形式が行われていたもう一つの理由としては、読み書き能力の問題が挙げられます。当時は、本を自主的にすらすら読むことはできないが、なんとか拾い読みならできるといえる人が多かったようです。そのため、声に出して拾い読みをする、または読める人に読み聞かせてもらおうといった「潜在的読者」が多く存在しました。彼らは個人的に黙読で読書に耽ることはできなかったのです。そんな彼らが好んだ小説のジャンルは、歌舞伎・音曲・噺・講談等の民衆演芸を、紙上に複製・縮冊・再現したものでした。それを読むことは、すでに劇場で視覚的に見たことのあるものを、もう一度読むという経験であり、その内容自体は舞台から語りかけられたものの口演速記に近いもの、つまり声に出して語られたものを文字にしたものでした。潜在的読者は、このような小説のジャンルを読み聞かせてもらうことによって、限られた読み書き能力で、読みものへの関心と欲求を満たしていました。

現代におきかえて考えてみると、映画のノベライズやドラマの原作を読んでみるといった読書を皆さんもすることがあると思います。すでに内容を知っているのに読みたいと思うことは、考えてみれば不思議なことですが、観たものを、読むことによってもう一度楽しむという行為のルーツは、以外に古くからあるのかもしれない。

さらに前田愛は、朗読とは別の朗誦という音読の形式として、漢籍の素読を挙げています。この読者は、これまでとは異なり、士族や地方豪族の子弟たちで、当時の知識層を形成していました。彼らは幼い頃から、漢籍(中国の書物、漢文)を、素読(文章の意味・内容の理解はさておいてまず文字だけを音読すること、漢文学習の初歩とされた)を行っていました。毎朝学校に行く前などに素読をし、ことばのひびきとリズムを反復復誦することによって、それが生理と化すほどに体に刻み込んでいったのです。意味の理解はもう少し成長してから行われました。彼らは、ことばのひびきやリズムを楽しむことができる人々で、書生達がリクリエーションのひとつとして、集団で愛読

する漢詩文を吟誦・暗誦することがあったといいます。その光景を今想像すると奇妙に思うかもしれませんが、言葉をみんなで声に出して、ひびきやりズムを楽しむという意味では、少し前の『声に出して読みたい日本語』（斎藤孝著）の流行に近いものがあると思います。

これまで、昔の日本の読者がどのように本を読んできたかを紹介してきました。本を読むという行為は古くからあるものですが、その読み方は、

時代によって変化していきます。電子書籍の出現によって、これからも読み方が変わっていくかもしれません。皆さんも、多読、精読、乱読などどんなやり方でも良いので、自分なりの読み方で読書を楽しんでほしいと思います。

参考文献：前田愛『近代読者の成立』
1973年有精堂出版

図書館ホームページ上の【マイライブラリ】を利用しましょう

図書館記載台にある利用申請書に
利用者番号（ID）・氏名・メールアドレスを
記入しカウンターで申し込みましょう。
原則として翌日から利用できます。

● 利用者番号（ID）

学部生・院生 → 学籍番号
教 職 員 → 教職員証番号
そ の 他 → 図書館利用証番号

● パスワード

初期パスワードは図書館で設定します。
ログイン後、パスワードの変更をしてください。

こんなことが出来ます

- 購入希望図書の申し込み (309冊)
- ILL（図書館間相互協力）サービスの申し込み
 - ☞ 当館に所蔵がない資料を国内外の他大学の図書館から借り受けたり、必要な部分の複写を入手することができます。 (21件)
- 図書の予約・取寄せ (47冊)
 - ☞ 読みたい図書が貸し出されている場合、その図書が返却された時、優先的に借りることができます。本館の図書を分館に取寄せる、あるいは分館の図書を本館に取寄せることができます。
- 貸出延長 new (145冊)
 - ☞ 開館時間外、休館日でも延長できます。また開館中でも借りている図書を持参せず延長できます。
- 利用状況の確認
 - ☞ 貸出状況、予約状況、購入申込、ILL依頼申込状況を知ることができます。
- 新着情報 new
 - ☞ 図書館に入荷された図書や雑誌の中から、あなたが決めたキーワードを持つ図書や雑誌をお知らせします。

（ ）内は2010年10月1日～2011年2月28日のマイライブラリ利用状況

ささやき

この号は新入生向けの内容になりましたが、新入生に限らず在学生の方もどんどん図書館を利用して下さい。いつでも私たち図書館員はできるかぎりお手伝い致します。

平成23年4月1日 発行
編 集 図書館だより編集委員会
発 行 白鷗大学総合図書館
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117

ホームページ <http://hakuoh.jp/library/index.html>
印 刷 株式会社 林尚文堂印刷所